

「社会を明るくする運動」は、すべての国民が犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。

「社会を明るくする運動」作文コンテストは、次代を担う小・中学生の皆さんに、日常生活の中で体験したことを基に、犯罪や非行に関して感じたことをいきいきと作文に書いてもらうことを通して、この運動に対する理解を深めてもらうことを目的としています。

毎年、多くの小・中学生の皆さんがこのコンテストに参加していただいています。この度、第67回のコンテストで養老町立池辺小学校六年(受賞時)山田楓真さんが入賞されましたので紹介します。



日本BBS連盟会長賞 岐阜県推進委員会委員長(岐阜県知事賞)

## 明るい社会が犯罪を防ぐ

養老町立池辺小学校六年(受賞時)

山田 楓真

今この世の中は、たくさん人の犯罪が起きています。強盗や、暴力、そして迷惑行為など、他にも様々な犯罪が起きています。このような犯罪は、なぜ起こってしまうのでしょうか。

何かイライラする出来事があったからと、犯罪につながる人がいます。やって良いこと、やっては

いけないことの区別がつかなくたりする人もいます。そして残念なことに、おもしろ半分をやっている人もいます。このような人たをなくしていくにはどうすればよいのか考えてみました。

もちろん、この人たを厳しく罰して、反省させ、立ち直らせることも大事かもしれません。しか

し、世の中の人たが立ち直ろうとしている人たを「あの人は犯罪者だから。」と決めつけ、受け入れなかったら、立ち直ろうとしていた人たはどうなるのでしょうか。その人はまた、怒りに身を支配され、また悪い道へと進んでしまうかもしれません。

私の学校にも一人、立ち直ろうと努力したのに、みんなに理解してもらえず、悲しい思いをした子がいます。その子は以前、友達に暴力を振るってしまいました。振るわれた子たたちは、その子と次第に距離をとり、口もきかなくなっていました。少したつと、暴力を振るってしまった子は、自分で反省し、仲直りをしようとして努力していました。しかし、振るわれた子たたちは、話かけられてもあまり口をきかず、まだ距離をとって、振るった子が努力していることに気がついていませんでした。そしてまた、振るった子は、努力するのをやめてしまい、再び口を閉ざしてしまいました。その様子を見ていた先生が、振るわれた子たたちに「あの子はあの子なりに努力していたのよ」と伝えられたことで、かたくなに拒否していた心が変わり始めました。ですが、もしあのまま、努力を認めてもらったり、やり直そうとする心を信じてもらったりする場がなかったら、その

子はまた、暴力を振るっていたかもしれません。

人が立ち直るには、その人が立ち直ろうと思うことも大切ですが、その周りの人の理解、思いやりのほうが大切だと私は思います。そして、あの人は悪い人だからと決めつけず、一人でもその人の努力やがんばりを分かちあられる人がいれば、誰だって立ち直ることができると私は信じています。しかし、今これができたとしても犯罪者だった人が立ち直ることができるだけで、また新しい犯罪者が出てくる可能性があります。では、新しい犯罪者が出てこないようにするにはどうすればよいのでしょうか。

私は、誰にとっても明るい社会をつくるのが犯罪や非行を防ぐのにつながってくると思います。誰にとっても明るい社会、それは一人一人が人のため、みんなのために、行動することで自然と出来上がっていきます。例えば、お年寄りの方の荷物の手助けをしたり、体の不自由な人を支えたりして、人間一人一人が弱い立場の人を自然に助けられるようになったら、きっと明るい社会が生まれれると思います。

私の学校でも、学校が明るくなるように生徒一人一人が「くさんおはよう」と、名前を付けてあ

さつすることを心掛けています。また、六年生は毎朝、学校に着いた子から昇降口の前に並び、登校してくる子達に「おはようございます。」と大きな声であいさつをする、あいさつ運動という活動を行っています。この名前を付けてあいさつと、あいさつ運動を行ったことで学校はあいさつの声が広がり、とても明るい学校になりました。

また「きらりみつけ」という活動も行っています。仲間の良さがやんばりを見つけ、カードに書いて送ります。仲間と認めてもらった喜びを感じることが出来ます。そして、さらに、仲間のため、学校のために働きたいと思えるようになります。学年もこえた「きらりみつけ」を続けることで、仲間と一緒に活動し、仲間との関係を築いていくことにもつながっています。

相手に優しくすれば、相手も優しくしてくれる。私も助けてもらったり、やってもらったりするとうれしい気持ちになります。小さなことでもいいから、自分にできることを積極的にしていこうと一人一人思うことができたなら、ぼくたちが住む社会は誰にとっても住みやすく明るい社会になり、犯罪を防ぐきっかけになると私は信じています。